

平成26年1月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,905	8,396	4,223	4,173	6	0
2 千 石	3,403	6,695	3,376	3,319	4	11
3 内 山	4,831	7,076	3,811	3,265	△ 11	△ 20
4 大 和	3,188	6,605	3,310	3,295	△ 4	△ 22
5 上 野	7,233	15,577	7,614	7,963	3	26
6 高 見	6,379	12,482	6,005	6,477	△ 11	△ 28
7 春 岡	6,340	10,450	5,562	4,888	△ 11	△ 14
8 田 代	11,142	21,324	10,185	11,139	△ 6	△ 21
9 東 山	9,687	18,916	9,225	9,691	△ 18	△ 8
10 見 付	4,303	8,315	4,148	4,167	△ 38	△ 42
11 星ヶ丘	3,340	6,600	2,956	3,644	△ 3	1
12 自由ヶ丘	3,497	7,718	3,528	4,190	△ 4	△ 5
13 富士見台	6,334	15,611	7,221	8,390	△ 9	△ 30
14 宮 根	3,680	8,390	3,971	4,419	2	△ 12
15 千代田橋	3,592	8,742	4,086	4,656	△ 11	△ 5
千 種 区 計	81,854	162,897	79,221	83,676	△ 111	△ 169
H25.1.1	81,187	161,967	78,791	83,176	△ 14	10
対 前 年 比	667	930	430	500	△ 97	△ 179
名 古 屋 市	1,035,428	2,272,075	1,119,023	1,153,052	△ 116	△ 306
愛 知 県 (H25.12.1)	2,998,287	7,436,857	3,714,652	3,722,205	1,372	150

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	121	121	0	729	898	△ 169

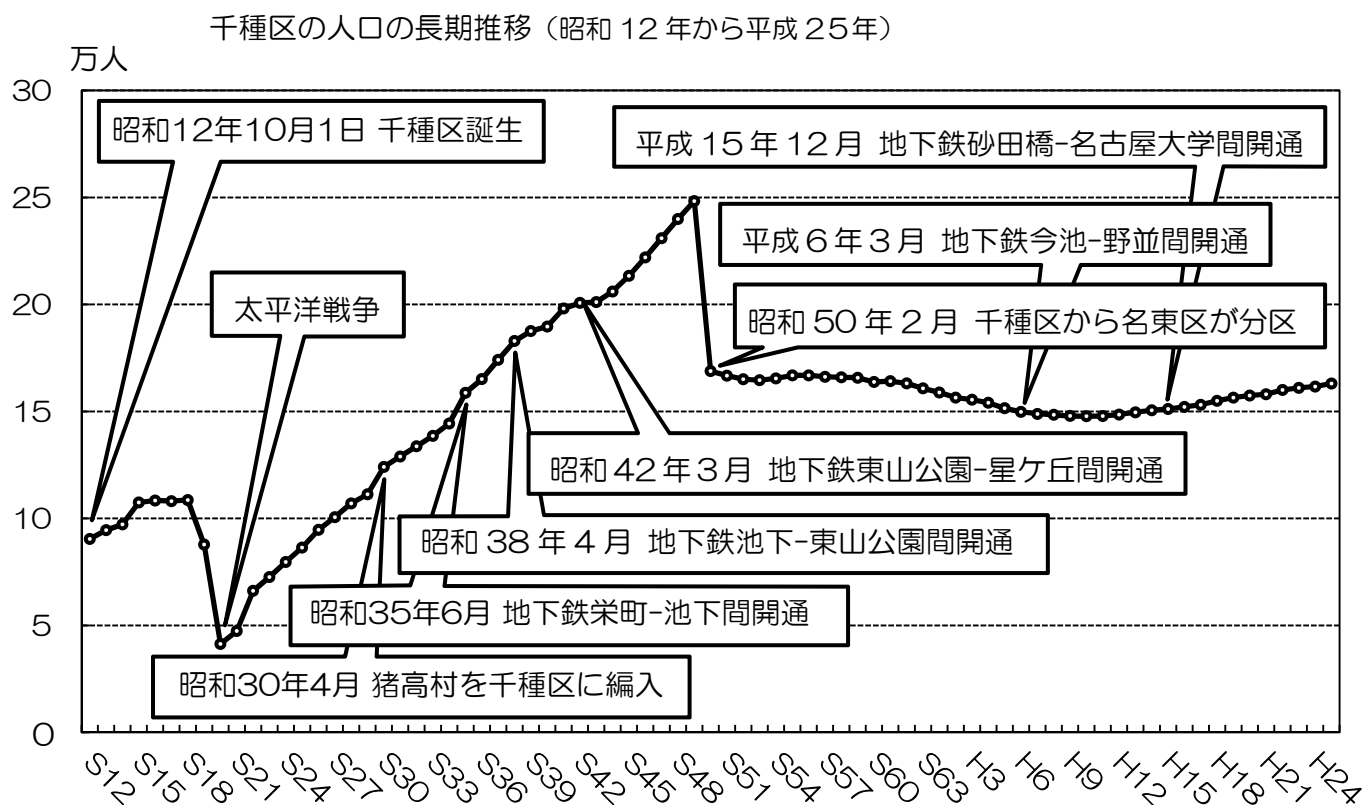
【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,132	これまでの最少人口	
平成2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものです。(平成24年7月中の集計までは、毎月の外国人登録の異動数も加減して推計しています)

千種区の人口の長期推移

平成 26 年 1 月 1 日現在の千種区の世帯数は 81,854 世帯、人口は 162,897 人となり、1 世帯当たりの人員は 1.99 人となりました。今回は千種区が誕生した昭和 12 年から平成 25 年までの千種区のあゆみに伴う人口の長期推移をみていきます。



名古屋市は明治 22 年 10 月 1 日に市制施行され誕生しました。その当時の名古屋市は東区、西区、中区および南区の 4 区から構成されていました。千種区は、市制施行から 29 年後の昭和 12 年 10 月 1 日に、東区から旧千種町、東山村が分区して誕生しました。誕生時の人口は 90,400 人でした。

昭和 20 年、太平洋戦争により人口は激減し、41,383 人にまで低下します。名古屋市全体を見ても、昭和 20 年 11 月に戦後最小人口（597,941 人）となっています。

しかし戦後は、第一次・第二次ベビーブームおよび高度経済成長前期における大都市への人口集中、高度経済成長後期における人口のドーナツ化現象による周辺部の人口増加の波に乗って人口が急速に増加し、また、昭和 30 年 4 月の猪高村の千種区編入や地下鉄東山線の延伸なども伴い、昭和 49 年には千種区の人口が過去最高の 248,334 人に達しました。

翌年の昭和 50 年 2 月に千種区から名東区が分区し、千種区の人口は 173,598 人となりました。また同時に天白区が昭和区から分区し、現在の 16 区の形となっています。

その後、千種区の人口は区外への転出超過に伴って平成 10 年頃まで減少傾向が続きましたが、区内マンションの増加等により平成 11 年から転入超過となり、以降 15 年連続で人口増が続いています。平成 25 年 10 月 1 日現在では 163,063 人まで増加しています。

※本資料における人口とは、国勢調査の結果および各年 10 月 1 日現在における推計人口を示しています。ただし、昭和 16~19 年は 12 月 31 日現在、昭和 20 年は 11 月 1 日現在、昭和 21 年は 1 月 1 日現在の推計人口を示しています。